

CASBEE[®] 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社進々堂 工場 新築工事	階数	地上3F
建設地	京都市伏見区深草西川原町21番地1の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域, 準防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2018年7月16日
敷地面積	3,203.53 m ²	作成者	イサム設計
建築面積	1,812.84 m ²	確認日	2018年7月16日
延床面積	3,570.52 m ²	確認者	野田均



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	周辺環境への影響を最小限とするため建物高さ、規模、外装等に配慮した設計としている
その他	
Q1 室内環境	内装材について☆☆☆仕様とし、室内の空気を健全に保つよう配慮した
Q2 サービス性能	事務室の天井高を2.7mを確保 食堂を設けることによりリフレッシュスペースを確保
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている。
LR1 エネルギー	モデル建物法複数用途集計ツールでBPIが0.70
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用による資源の浪費を抑えている
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場を確保し、出入り口位置を適切に配置することで、交通負荷抑制に配慮している

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される